



河村 徳田さんは、お子さんが4人いらっしゃるんですね。夜、仕事に出るときなどは、お子さんが留守番をされるんですか？

徳田 今うちは私の親も含めて9人家族なんです。子どもが生まれたときに、仕事を続けていくためには親の助けが必要かなと思って同居しました。子育てを手伝って、私も誰かが子どもを見てくれて、そこは安心できましたね。

河村 家族の協力があると、安心して子育てができますよね。市長さん、皆さん充実されているように

ですね。

市長 そうですね。家族の支援があるというのは幸せなことですね。核家族も増えていきますし、仕事をしながら子育てや親御さんの介護ができる環境というのは、幸せな家庭だと思います。

子育てと仕事

河村 小川さんも徳田さんも、子育てと仕事を両立されていますけ

なくて困ったときに利用できるシステムが、すごくよかったんですね。

徳田 あと、要望としては、子どもの医療費の助成をお願いしたいです。

市長 そうですね。行政としては、働きやすい、結婚しやすい、子育てしやすいという環境整備が必要だと思っています。子どもの医療費助成の拡大も、経済的支援の一つとして検討しています。

仕事も家庭も頑張る女性の皆さんを、多方面からフォローしていくため、平成26年4月に立ち上げた女性こども課を中心に、結婚や

子育ての支援に積極的に取り組んでいるところですね。

河村 田中さんのように、市外から来られた方にも住み続けたいと思ってもらえるような支援をお願いしますね。

市長 ええ、分かりました。

保育所に関しても、「残業しないといけないから遅くまで預かってほしい」、「子どもが病気になるたとき、保育所に迎えに行かないといけないから、会社に迷惑を掛けてしまう」という声も聞きます。そういうところも考えていきたいと思っています。



ど、子育てってしんどいときもあるじゃないですか。田中さんは、実家が遠いんですけど、今後子育てをするってなったときに、どんな助け舟が欲しいと思いますか？

田中 うーん、難しいですね。地元で子育てするんだったら、近くに相談できる人がいますけど、府中には家族や親戚もいないので、今頼れるとなると、職場の方かなと思いますね。

ただ、新しく居を構える所で、地域の方とはコミュニケーションをとりたいと思っています。近所の方に子どもを見てほしいとかで

はないんですけど、子どもが歩いているのを見て、「あの子は田中さんの子供なんだな」って分かってもらえて、「おはよう」って言ってもらえるだけで、子どもにとっては良い環境だと思うので。

河村 すごくしっかりした考えを持っていらっしゃるんですね。

徳田 子育てと仕事の両立には、保育所の存在も重要ですよ。生後6か月から見られるとか、いろいろ制度も整っていますし。

「女性が輝く」 ためには？

河村 小川さんは、お子さんたちが少し大きくなってから起業されたんですね。起業するときに大変だったことはありますか？

小川 無理のない範囲でやっているの、大変ではなかったですね。みんなが力を貸してくれて宣伝などもしてくれるので、温かみとい

うか、本当にそれで成り立っていて大変だったというより、ありがたみを感じました。だから今は、その人たちのためにおいしいものを作ろうという気持ちですね。

河村 すごく素敵です。

徳田 親が仕事にやりがいを持っていると、子どもも将来の夢を考えたとき、ちょっと参考にしてくれるんじゃないかと思うので、生き生きと仕事をしたいなとは思いますが。

河村 徳田さんは、育児休業から復帰したときの職場の空気などは、どうでしたか？

